

股関節・骨盤の画像診断

川原康弘 ● 編

川原康弘/長田周治/山口哲治/藤本 肇 ● 著

〔評者〕 中島康晴 (九州大学・整形外科教室)

長崎労災病院放射線科部長の川原康弘先生の手による『股関節・骨盤の画像診断』が上梓された。「こういう画像の教科書がほしかった」、これは本書を手にとった私の偽らざる第一印象である。今まで骨盤・股関節部の画像診断を系統的に取り扱った成書は私の知る限りは存在せず、ほとんどは部分的に述べられているに過ぎないからである。

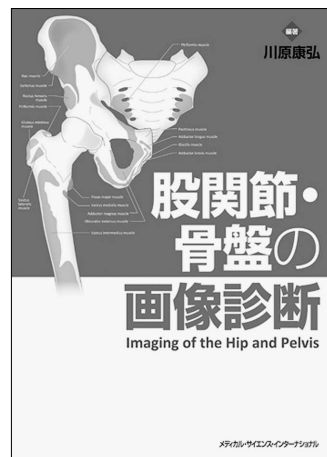
本書の素晴らしい点として、あらゆる病態・疾患に対応している点をまず挙げたい。例えば、大腿骨寛骨臼あるいは坐骨大腿骨インピンジメントは比較的新しい疾患概念であるにもかかわらず、その単純X線写真からMRIの画像まで漏れることなく記載されている。人工関節合併症にしても金属摩耗粉によるハレーションの見え方やその低減方法まで示されている。

第2に、整形外科の教科書ではみられない、圧倒的なMRI画像の豊富さである。大腿骨頭壊死症にT1 low band像がみえることは知っていても変形性股関節症や急速破壊型股関節症のMRIがど

のようにみえるかを知っている医師は少ない。さらにはT1 low=骨壊死とパターン認識している場合も多い。本書では、多くの疾患のMRI像が掲載されており、正しい診断に大いに役立つと思われる。

第3に、解剖との対比がわかりやすいことである。筋付着部はその都度わかりやすく図示されており、滑液包の位置や腱炎の好発部位のmise方も見事というしかない。川原氏がいかに多くの症例をその目でみてきたかを物語っている。

考えてみれば、川原氏は我々整形外科医にとってありがたい存在である。放射線診断学の中では少数派であろう骨関節疾患を得意とされる先生であり、今までなかった股関節・骨盤の本格的な画像診断の教科書を作成してくれたわけである。出版元のメディカル・サイエンス・インターナショナルの編集者からは、本書に対する川原氏の強いこだわりも聞いた。校正の回数は四、五回にものぼると言う。その編集者からも「いい本に仕上げた」という充実した表情も読み取れた。



本書は日常診療の中で診断に困った時、股関節領域を専門とする医師だけでなく、一般整形外科医にとっても魅力的な本である。心よりお勧めしたい。

B5・頁 336

図 57・表 40・写真 573

2017 年 9 月

定価：7,800 円＋税

[ISBN978-4-89592-879-3]

MEDSi 刊